

# あじさい

フォト劇場 (39)

## 写真が生まれるものがたり

空襲で東京の空燃えし夜もあぢさゐは青き露置き  
あたり  
本田禎子

戦場化した異国に胸痛む昨今だが、私の父も  
東京大空襲で大怪我をし生死の境をさまつた  
一人だった。疎開つ子の私は遠い父母を案じ  
泣いてばかりいたが、校庭をめぐらす露をも  
つあじさいの花群にいつも慰められていた。

みつみつと白あぢさゐの咲くやうな脳に沁み入る  
みそひと  
三十一文字は  
渡辺南央子

春が去りもうすぐ夏よ、と知らせる案内人の  
ような紫陽花が好きである。特に純日本種の  
額紫陽花の藍色が点る様に揺れる夕暮れは、  
過ぎ去った日々が次々と浮かび消えてゆく。  
それはあの集合体の球花の形に依るものかも  
しれない。



写真・木畑紀子

あぢさゐの花球に水を吐きかけてあなたは虹のや  
うに笑つた  
前中 映

咲いたばかりの紫陽花はあんなに瑞々しくて  
美しいのに、どうして美しいまま散つてくれ  
ないのだろう。季節が移り、すっかり色褪せ  
てしまった花がそれでも形は保ったまま立ち  
続けている様はなんとも不気味で怖ろしい。

さねさし相模の叔母の遺したるあぢさゐ衣ことし  
こそ着む  
今泉洋子

単衣ひとえの着物は六月と九月に着る。紫陽花等の  
花柄の着物は花時はさけて、その前に着た方  
がいい。温暖化により着物の仕来りしきたりも緩めで、  
単衣も五月下旬から着ていいと言うのが気合い  
を入れて着ないと時期を逸してしまふ。